

収量および果形が優れ、栽培の省力化が可能な 単為結果性ナス新品種「あのみりのり2号」

ナス栽培では、着果と果実肥大の安定化のために着果促進剤処理や訪花昆虫が利用されています。しかし、着果促進剤処理に要する労力は栽培に要する全労働時間の約1/4~1/3を占めるとともに、訪花昆虫の利用には花粉形成に必要な最低温度の確保が必要となります。これらの問題を解決するために、野菜茶業研究所では2009年に着果促進処理を必要としない単為結果性品種「あのみりのり」が育成されましたが、収量性がやや低い、栽培する環境条件等によって果形が変化しやすい等の問題がありました。そこで、これらの特性を改良した単為結果性新品種「あのみりのり2号」が育成されましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「あのみりのり2号」は、イタリアから導入したナス品種「Talina」を単為結果性の育種素材とした両親（種子親：「AE-P01」、花粉親：「AE-P24」）を用いたF₁品種です。
2. 「あのみりのり2号」は、高い単為結果性を有するため、正常果の割合が高く（表）、低温期である促成栽培において、着果促進処理を行わなくても商品果の生産が可能です。
3. 「あのみりのり2号」は、「あのみりのり」よりも1株当たりの商品果数が多く、収量性が高くなります。また、1果重は「千両2号」よりも重く、「あのみりのり」とほぼ同等です。
4. 「あのみりのり2号」の果実は長卵形で美しく（図）、栽培する環境条件等による果形の変化が「あのみりのり」よりも少なくなります。

表 「あのみりのり2号」の単為結果性

品種名	試験年度	開花数に対する割合(%)		
		正常果	石ナス果	落花
あのみりのり2号	2010	100.0	0.0	0.0
	2011	91.5	1.5	7.0
あのみりのり	2010	90.9	2.1	7.0
	2011	64.5	4.7	30.8
千両2号	2010	0.0	78.2	21.8
	2011	0.0	25.6	74.4

2010および2011年度は促成作型、それぞれ10/4~11/12および11/25~1/8に開花した花について着果・肥大性を調査。いずれの品種も着果促進処理なし。

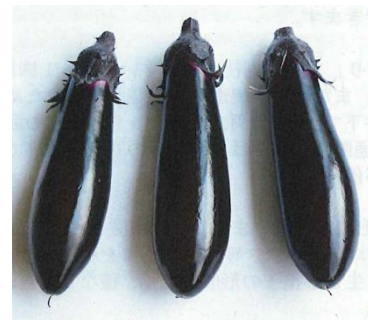


図 「あのみりのり2号」の果実

☆ 活用面での留意点

1. 着果促進処理が不要なため、栽培の省力化が可能です。また、側枝の伸長がゆるやかであるため、整枝の省力化が可能です。さらに、果実品質は一般的な市販品種と同等以上です。
2. 先に発表した単為結果性品種「あのみりのり」と同様、全国の種々の作型で栽培可能です。
3. 促成栽培等では、着果促進処理する市販品種よりも収量が低いことがあります。
4. 種子は、農研機構と利用許諾契約を締結した民間種苗会社から販売される予定です。販売が始まるまでの間は、野菜茶業研究所と「原種苗提供契約」を締結後、有償で提供されます。
5. 詳しいことは、野菜茶業研究所（TEL:050-3533-3861）までお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）